2025年度

S７　小　論　文

2月25日(火)　情　報　学　部（情報社会学科）　9：30～11：30
【前 期 日 程】

注　意　事　項

試験開始前

1　監督者の指示があるまで，問題冊子，解答用紙，下書き用紙に手を触れてはいけません。

2　監督者の指示に従って，全部の解答用紙(３枚)に受験番号を記入しなさい。

試験開始後

3　この問題冊子は，７ページあります。はじめに，問題冊子，解答用紙，下書き用紙を確かめ，枚数の不足や，印刷の不鮮明なもの，ページの落丁・乱丁があった場合は，手をあげて監督者に申し出なさい。

4　解答は，すべて解答用紙に記入しなさい。(下書き用紙と間違わないよう十分注意してください。下書き用紙は採点対象となりません。)

5　文字数制限のある解答用紙の記入については，下記の点に留意すること。

・書き出しは，一マスあけない。
・改行後は，一マスあけない。
・句読点及び括弧等は，それぞれ一マス使う。行の末尾については文字と同じ一マスに含める。
・小さな文字「っ」「ゃ」「ゅ」「ょ」等はそれぞれ一マスで使う。
・英数字は一マスに２文字入れてよい。

6　問題は，声を出して読んではいけません。

7　配点は，比率(%)で表示してあります。

試験終了後

8　問題冊子と下書き用紙は，必ず持ち帰りなさい。

1

情報通信技術の発展は，人々の生活の在り方に変化をもたらしてきた。近年では，パソコンやスマートフォン等を活用したテレワーク（在宅勤務）も普及しつつある。

表1から表3は総務省統計局「令和3年社会生活基本調査」（令和3年10月実施）の結果の一部である。この調査は，1日の生活時間の配分や1年間の自由時間における主な生活行動など，国民の社会生活の実態を明らかにすることを目的として行われたものである。表1は，調査当日に仕事があり，うちテレワークをした人口を年齢階級別に表したものである。表2および表3は，テレワークをした人としていない人について，それぞれの生活時間の配分について表したものであり，年齢階級別に示している。

テレワークは人々の生活と社会にどのような影響を及ぼしていると考えられるか。表から読み取れることを指摘しながら，社会的課題や可能性について，あなたの考えを600字以内でまとめなさい。

（配点40％）

表1　年齢階級別テレワークをした人口(2021年)―平日，有業者

年齢階級	仕事のある日(出張・研修などを除く)		
		うちテレワークをした人口	
	人口(千人)	人口(千人)	テレワーク実施割合(%)
総数	52867	3542	6.7
15～24歳	3570	109	3.1
25～34歳	8587	847	9.9
35～44歳	10969	965	8.8
45～54歳	13533	837	6.2
55～64歳	9467	564	6.0
65歳以上	6742	219	3.2

出典：総務省統計局「令和3年社会生活基本調査」(令和3年10月実施)を加工して作成

注：　表1は調査対象となった生活時間の指定日が「平日」で，その日に仕事があった有業者(5286万7千人)についての状況を示したものである。

表2　25～34歳におけるテレワーク(在宅勤務)の実施の有無別
「1日の生活時間の配分」(2021年)―平日，有業者

単位(時間.分)

	(a)テレワーク(在宅勤務)	(b)テレワーク以外	差(a)－(b)
睡眠	8.06	7.25	0.41
身の回りの用事	0.56	1.13	－0.17
食事	1.30	1.15	0.15
通勤・通学	0.03	1.15	－1.12
仕事	8.59	9.06	－0.07
学業	0.02	0.02	0.00
家事	0.36	0.27	0.09
介護・看護	0.01	0.00	0.01
育児	0.13	0.15	－0.02
買い物	0.10	0.06	0.04
移動*	0.05	0.08	－0.03
テレビ**	0.22	0.28	－0.06
休養・くつろぎ	1.30	1.31	－0.01
学習・自己啓発***	0.15	0.04	0.11
趣味・娯楽	1.00	0.32	0.28
スポーツ	0.06	0.03	0.03
ボランティア****	―	0.00	―
交際・付き合い	0.03	0.03	0.00
受診・療養	0.01	0.01	0.00
その他	0.02	0.05	－0.03

出典：総務省統計局「令和3年社会生活基本調査」(令和3年10月実施)を加工して作成

注：　本表の単位は(時間.分)である。例えば，「0.02」であれば「0時間2分」，「1.10」であれば，「1時間10分」と読む。表3に関しても同様である。

備考　以下は表中の項目に関する補足である。表3に関しても同様である。

*：移動(通勤・通学を除く)

**：テレビ・ラジオ・新聞・雑誌

***：学習・自己啓発・訓練(学業以外)

****：ボランティア活動・社会参加活動

表3　35～44歳におけるテレワーク(在宅勤務)の実施の有無別
「1日の生活時間の配分」(2021年)―平日，有業者

単位(時間.分)

	(a)テレワーク(在宅勤務)	(b)テレワーク以外	差(a)－(b)
睡眠	7.18	7.17	0.01
身の回りの用事	1.07	1.18	－0.11
食事	1.29	1.18	0.11
通勤・通学	0.05	1.08	－1.03
仕事	8.50	8.50	0.00
学業	0.00	0.03	－0.03
家事	0.56	0.57	－0.01
介護・看護	0.02	0.01	0.01
育児	0.41	0.18	0.23
買い物	0.07	0.08	－0.01
移動*	0.11	0.09	0.02
テレビ**	0.37	0.39	－0.02
休養・くつろぎ	1.31	1.21	0.10
学習・自己啓発***	0.10	0.03	0.07
趣味・娯楽	0.35	0.18	0.17
スポーツ	0.08	0.03	0.05
ボランティア****	0.01	0.01	0.00
交際・付き合い	0.03	0.03	0.00
受診・療養	0.04	0.01	0.03
その他	0.06	0.04	0.02

出典：総務省統計局「令和3年社会生活基本調査」(令和3年10月実施)を加工して作成

2

次の文章は『テレビドラマは時代を映す』(岡室美奈子著，早川書房，2024年)の一部である。よく読んであとの問いに答えなさい。なお，問題作成のために文章を一部改変した。

(配点 60 %)

著作権の関係上、公表しません。

著作権の関係上、公表しません。

著作権の関係上、公表しません。

問 1 「テレビはまだまだ共通言語なのだ」と筆者は述べている。ここで筆者のいう「共通言語」とはどのようなことか，150 字以内で説明しなさい。

問 2 あなたはテレビの意義についてどのように考えるか。本文を参考に，あなたが考える理由を挙げながら 400 字以内で述べなさい。

（様式８）

採点・評価基準(具体的基準)

<table>
<tr><td>教科・科目名</td><td>小論文（前期日程試験：令和7年度）　１／２</td><td>問題番号</td><td>S7</td></tr>
<tr><td>対象学部・学科(課程)等</td><td colspan="3">情報学部（情報社会学科）</td></tr>
<tr><td>出題のねらい</td><td colspan="3">1
近年，日本においてもテレワークの導入が進みつつある。これにより，人々の生活にどのような変化があったのか，テレワーク実施者とそうでない者の違いや，年齢階級別のデータの差異に着目しながら，調査の結果を読み取る力を問うことが本設問の第1のねらいである。また，これらの結果から，社会におけるテレワークの普及に関して今後どのような展開や社会的課題が考えられるのかを具体的に提示する能力，すなわち問題発見能力を問うことが本設問の第2のねらいである。全体を通じて，情報化の利点と課題点双方に着目して議論を展開する能力にも期待している。</td></tr>
<tr><td>採点基準
（点数は200点満点の場合）</td><td colspan="3">1（配点40%）（80点）

小論文の作成にあたっては，与えられた表1～表3を正しく読み取ることが求められる。まず，「社会生活基本調査」の内容について，設問文及び各表のタイトルや出典情報から理解する必要がある。その上で，この調査の回答結果について，回答全体の傾向はどのようなものか，テレワーク／テレワーク以外で違いのある項目はどれか，年齢階級別のデータに関してどのような違いがあるのかに着目する必要がある。

(1) 表1からテレワークの導入状況について，全体的な傾向について言及できているか。
(2) 表2，表3について，テレワーク，テレワーク以外の区分に着目した際に，両者の差が見られる項目について言及できているか。（通勤・通学時間の差など）
(3) 表2，表3について，年齢階級別のデータの特徴の有無について言及できているか。（35～44歳における育児時間の差など）
(4) 上述した(1)～(3)に関連して，テレワーク導入による生活変化，その背景，テレワーク導入による利点や欠点に言及できているか。
(5) テレワーク普及に関する現代社会の課題や，テレワーク普及に向けた社会的障壁について論じているか。

表から読み取れることが多いため必ずしも上記すべてを満たす必要はないが，限られた字数のなかで，状況把握から問題発見まで一貫した論理展開ができているかを評価する。</td></tr>
</table>

（様式８）

採点・評価基準(具体的基準)

<table>
<tr><td>教科・科目名</td><td>小論文（前期日程試験：令和7年度）　２／２</td><td>問題番号</td><td>S7</td></tr>
<tr><td>対 象 学 部・学科(課程)等</td><td colspan="3">情報学部（情報社会学科）</td></tr>
<tr><td>出題のねらい</td><td colspan="3">2
テレビ＝オワコン論を起点にしてテレビの意義が論じられる課題文を読み，著者の主張を正確に読み取る力を問うことが第1のねらいである。その上で，テレビが共通言語である理由について，自分の経験に引きつけながら自ら考え，その考えを適切に表現する力を問うことが第2のねらいである。ふだんから情報社会に関する新書等を読み，こうした力を養っておくことが期待される。</td></tr>
<tr><td>採 点 基 準
(点数は200点満点の場合)</td><td colspan="3">2（配点60%）（120点）

問１　著者の主張を正確に理解し，それを的確に説明することができていること。著者は，テレビ＝オワコン論がささやかれる現在に，テレビの意義を「テレビがまだまだ共通言語」である点から評価している。そして，その理由の説明として，テレビの同時性や共通の記憶を醸成し，一つのコミュニティを形成しているという機能面から論証している。こうしたテレビの意義を，本文内の語句を用いて的確に説明することが求められる。
（20%）（40点）

問２　配信ドラマの人気が高まっている現代において，あえてテレビの意義を再考する著者の主張を理解したうえで，これに対してそれをどのように受け止め，評価するのか。また，テレビの意義を自分自身はいかに考えるか。本文を適宜引用しつつ，自らの経験に引きつけながら，具体的に考察することが求められる。こうした考察を通じて，論理的思考力，情報社会に関する意識や知識，そして観点の独創性や的確さを評価する。
（40%）（80点）</td></tr>
</table>